

た館山市モデルの作成」をテーマに検討を行い、中学校の英語担当教師が小学校における英語授業のあり方について小学校教諭と共に研究を重ね、小学校における学年別の学習指導案やALTを活用した授業手法を作成した。また、小学校に派遣するALTを1名から3名に増員し、英語教育のほぼ全時間にALTを配置し、小学校3年生における最初の英語学習から、活かした英語に接する機会の提供や英語学習への意欲を高める授業を展開してきたことで、児童が英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする状況もみられる。また、中学校の英語担当教師からは、「中学校スタート時の英語力を学習指導要領改訂前と比較すると、英語で会話をすることに反応が良く、英語を聞き取る力は以前よりも高まっている」、「小学校から英語を学習しているため、英語に対する不安感を持つ生徒が少ない」などの声が聞かれている。引き続き子どもたちの可能性を伸ばすことのできる教育環境の充実に努めていく。

Q2) 外国語教育における小中学校間の連携はどのように行われているのでしょうか？

A2) 館山市教育問題研究委員会において「英語教育における小中学校の連携」についても研究を行い、中学校における英語学習を踏まえて小学校の学習指導案を作成するとともに、毎年度、各小中学校の教師が参加する「館山市英語主任研修会」を市教育委員会において実施し、小中学校が連携し児童生徒の英語力の向上に取り組んでいる。今年度からは元中学校の英語担当教師を学力向上推進コーディネーターとして新たに雇用し、コーディネーター自ら小学校の英語授業を参観し、指導や助言を行うことで、小学生の英語力向上を目指す取組を

進めているところである。これら小中学校間の連携については、2020年度の小学校学習指導要領の改訂前から英語学習における重要事項と認識し、市教育委員会として対策を講じてきたところである。

所感

改定前と比べて中学校までに学習する英単語の数が約2倍に増加し、これまで高校で学習していた文法内容も中学英語の学習内容に含まれており、英語の得意・不得意な生徒間の差が今まで以上に大きくなってしまっているのではないかと危惧しています。

小中学校における外国語教育の学習指導要領の改訂に関しては、小学校では改定後2年目に入ったばかりであり、また、中学校では2カ月しか経過していないため、もう少し状況を見た上で改めて議論したいと思います。

その他

一般会計補正予算に関して2点質問しましたので、その内容についてお知らせします。



① 地域おこし協力隊事業について： (事業費約627万円)

館山市ではこれまでに『獣害対策支援』や『農業振興活動』、また、『リノベーションまちづくりの推進』等を目的に、地域おこし協力隊員を委嘱してきました。今回は『ワーケーション推進業務協力隊』として、